

ちよつといいけ？

湯原祥三さん(香集寺住職) 昭和23年76歳(本町)



棒で叩かれることもあるんです。毎年十二月一日〜八日まで方広寺で寝なし座禅(正式名称:轡八接心)というのがあるんです。夜中の0時から二時までは寝ることが許されるんですが、禅板せんぱんという板に頸をのせて座ったまま寝るんですよ。食事は麦飯と味噌汁と沢庵だけ。ずっと座っているもんでね足が痛くなる。でも、そういう苦しいこと修行の経験は無駄じゃなくて、ああいうことを俺も通り越してきたなと思うと大概の事は我慢できるような気がします。

臨済宗方広寺派「香集寺」の始まりと半僧坊信仰
※香集寺は永禄十一年(1568年)に奥山の臨済宗方広寺のお弟子さんよって創建されました。その頃の掛塚には湊があり漁業や廻船業、材木業が盛んでたくさんの人で賑わっていました。奥山方広寺の鎮守である半僧坊大権現は「海運・火伏の仏さま」として香集寺にも祀られています。掛塚の漁師さんたちも、航海や漁の前には安全祈願の参拝をされていたそうです。

〇お寺を継ぐことを決め、厳しい修行へ

お寺はね個人の物ではないので後継ぎがいなければ出ていくことになるんです。兄達がお寺は継がないというので、こりゃまずいと思って名古屋の徳源寺の僧堂(そうどう:禅宗の修行道場)に入って修行したんです。先代が病気で住職が出来なくなって、私は二十五歳の時に香集寺二十一代目の住職になりました。

僧堂での修行は厳しいですよ。朝三時半に起きてお経を読んで、寺の掃除をした後に食事、その後は座禅堂で禅問答をするんです。老師という偉い指導者がいる部屋の前でカーンと鐘を鳴らして、部屋の中からチリチリと音がしたら中へ入る。そこにはね普段は「ニコニコしている老師が鬼のような顔をして座っていて、ものすごく難しい問題を出されるんです。その答えを座禅して考えるんです。一か月、二か月と死に物狂いで答えを探します。

答えが分からなくても老師の所には毎日必ず行かないといけない。苦しいですよ。「分かりません」というと「お前は何しに来た!馬鹿者」と怒られる。私は叩かれたことないですけど変なこと言つと笏(しゃく)っていう

〇老師の付き人をしてた時のエピソード「心の中心にある二つの引き出し」

※老師は客人の事をみんな「いい人だった」と言つて、使いで客人の家を訪ねた湯原さんは小僧扱いされ横柄な言葉をかけられ、「老師は偉い人なのに人を見る目がないのでは...」と思つていたそうです。

あの頃の私はろくでなしで正義感ばかり強くてね、自分の未熟さを人や世の中のせいにして義憤に駆られて。その義憤が顔に出るから、相手も無礼な態度で応じていたんです。人は心に二つの引き出しを持っていてね、「上の引き出し」には高尚な思いや言葉・善い行いの種が、「下の引き出し」には欲望や愚痴・低俗な話題が入っているんです。人は話す相手によってその引き出しを使い分けていて、高尚な人と話す時は上の引き出しを、悪い人と話す時は下の引き出しを開けてしまっんですね。

結局は私が「下の引き出し」ばかり開けていたせいだと気づいたんです。相手に良い引き出しを開かせるような人格にならないといけないという事です。

から客人は老師の前に出ると、誰もが自然に「上の引き出し」を開けたくるので「あの人はいい人だったなあ」となるんです。

〇修業時代の一番心に残っている禅問答「芭蕉和尚がいつも杖を持っているのはどついつか」

私は最初、杖は腰や脚を助けるのに非常に便利なものだと、杖の事ばかり考えてしまつてね、(老師の所へ)何度行つても「ダメだダメだ!」と言われて苦しくなつて。先輩から助言をもらつてその通りにしても「お前は何をやってるんだ!杖になりきつて考えなさい!」と怒られ、その時ハッと「自分が杖になることを考えていなかった」と気づいたんです。それで「人の杖となつて、困つた時に導き助ける存在になりたい」と答えたら「まあいいだろう」と。その時は本当に嬉しくて柄にもなく涙がボロボロ出ちゃつて。(笑)でも最後に「頭で言うだけではだめだ。社会に出て、人を助け導いて初めてこの禅問答が通つたことになる」と諭されました。



笏(しゃく)をもつ住職

今回の取材で私たちは「偏つた考えや好き嫌いで物事を見るのではなく、その背景や相手の想いを想像し分かつと努力する。」そんな風に考えられる人になりたいと感じました。私たちの心に残つた住職の言葉は「僧衣を着て、様付けで呼ばれ、上座に座ると、自分が偉いと勘違いする。思ひ上がつてはいけません。裸でも尊敬される人になりなさい。」若い僧へ向けた教えです。 のりこ&さゆり

みんなと倶楽部 My hometown Kaketsuka

MINNATO CLUB 掛塚 ESTD.2016

第38号

P1	「有形登録文化財に登録されて初めての夏休み」「みんなと踊ろう会」
P2	第4回「夏休み子ども写生会・津倉邸を描こう」
P3	夏休み書道教室開催
P4	ちよつといいけ? 「湯原祥三さん(本町)」

「有形登録文化財に登録されて初めての夏休み」

この夏、旧津倉邸は国の有形登録文化財となつてから初めての夏を迎えました。毎年八月の土日には公開していますが、今年は猛暑の影響もあり、来場者は少なめ。その分、訪れた方にはゆっくり案内できたのは良かったと思います。

夏休み恒例の「子ども写生会」に加え、今年は新たに中学生の学習の場、次世代の子どもたちとの交流の場としての活用を始めました。書道教室では、書道の先生でもあるメンバーが指導にあたり、本格的ながらも和やかな学びの時間になりました。さらに、地元の歴史や明治の暮らしについても元教師のメンバーが解説し、登録有形文化財ならではの学習の場としての活用をすることができました。来年の夏休みには、今年よりも一人でも多くの中学生がこの場所を活用してくれることを楽しみにしています。

記事 山内紀子



「みんなと踊ろう会」

【八月二日】「みんなと踊ろう会」有志メンバーは川袋の八雲神社の例祭に参加しました。「しっぺい音頭」「掛塚音頭」「鮫島音頭」そして「ズンドコ節」を披露させていただきました。続いて行われた花火打ち上げは天候にも恵まれ天竜川の水面に美しく輝き感動的でした。



【八月十五日終戦の日】新町の国清寺にて「戦没者追悼平和祈念法要」が行われました。「いわた紙芝居の会」による「緑十字機と鮫島の青年たち」の紙芝居が披露されました。とても分かりやすく臨場感溢れる語りでした。「みんなと踊ろう会」も「鮫島音頭」を披露させていただきました。同日、竜洋戦没者慰霊塔にて追悼法要も実施されました。

記事 鵜藤孝



お問い合わせ

ご興味のある方は下記までご連絡ください!
☎ 0538-66-4775 (名倉)

- 会長 池田藤平
- 事務局 名倉慎一郎、大沢利行
- 編集 轟田茂巳、山内紀子、鈴木小百合



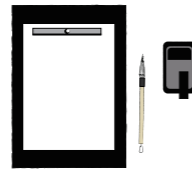
みんなと倶楽部 My hometown Kaketsuka



見事に完成!!



起筆の方法を伝授!



漢詩でお手本



書道指導・記事 鈴木彰

夏休み 書道教室開催

今年の夏休みは初めての試みで「書道教室 in 旧津倉邸」を開催しました。参加してくれたのは竜洋中学の生徒さん二名。朝九時よりスタートして、早速基本的な起筆、収筆、点画の勉強を二時間程しました。起筆ができた縦線、横線に本人達もオーツと思わず感嘆の声を上げていました。無事に学校課題の作品が完成し、見事合格点を出すことができました。

今回参加してくれたお二人は旧津倉邸の草取りボランティアにも参加してくれています。昨年までは二十名程だったボランティアが今年は三名となっています。また、今回の書道教室以外にも毎年恒例となった八月の土・日曜日の旧津倉邸公開日を利用して行われる「夏休み写生会」への参加自由研究の題材として旧津倉邸の歴史を学習、明治時代の暮らしと文化の研究にも取り組んでくれました。今年の中学生の皆さんの向上心と何事にも真面目に取り組む姿勢に感動しました。



芥田玲子さん

つくらの家を工夫しました。サルスベリの花を工夫しました。
【寸評】津倉邸の庭に目を向けて石灯籠や置石をしてサルスベリの花が可愛らしく描かれ小さな茶室もあり楽しさを感じます。屋根瓦や伊豆石や樹木の質感が見事です。



中村優希さん

シャワーの水と虹を描きました。
【寸評】大きな丸みのある屋根と建物の調和がおもしろく水まきの瞬間に現れた虹を描いて物語のある絵になりました。



大澤はるきくん

やねがむずかしかったです。かわらのところがこまかすぎてこするのがむずかしかったです。
【寸評】入り組んだ屋根と建物や庭をよく見て特に屋根瓦や葉っぱが太陽に光る色を塗り方の工夫で明るく楽しい絵になりました。



中津川桃叶さん

細かいところをがんばった。
【寸評】津倉邸の屋根、庭の樹木を大胆に力強く描きました。夏の空、屋根、樹木の色も合わせて存在感があります。



木村ご夫妻

成人の目を通して、津倉邸や庭の一角を丁寧に描いています。
また茶室の縁に腰掛ける人物を配した作品は、軒などの巧みな画面構成と色で童画の物語を感じる作品です。



山本愛純さん

伊豆石の蔵の石の質感を頑張りました。蔵に奥行きが出るように形を工夫しました。
【寸評】質感のある伊豆石の蔵を中心に周りの風景が同化する画面構成と色彩が見事です。屋根瓦や伊豆石や樹木の質感が見事です。



中村優太くん

クレパスで描いて指でこすったこと。
【寸評】大きな樹木の幹や枝や葉の広がり方や多くの色で光っていることを感じて塗り方を工夫し良い絵になりました。



小原明沙さん

屋根の質感や木の色具合を工夫しました。
【寸評】伊豆石の蔵と大きな樹木を画面いっぱいに構成し力強い作品になりました。屋根瓦や伊豆石や樹木の質感が見事です。

第4回「夏休み子ども写生会・津倉邸を描こう」

写生会は4回目となりました。今回は、小学生5名と中学生2名と一般成人2名の9名が「国の登録有形文化財旧津倉家住宅」を描こうと向き合いました。小学生は2回目の参加の子もいて、同じ場所でも前回とは違った表現で成長のあとが見られます。大きな瓦屋根を描くのは難しいです。太陽の光で輝く所はクレパスの塗り方を工夫しました。大きな樹木の幹や枝や葉もたくさん色を重ねて塗り方を工夫して生き生きとした絵になりました。
今回は、津倉邸の草取りボランティアの中学生2名の参加がありました。伊豆石の蔵を主題に描いています。蔵と樹木を画面いっぱいに構成し、瓦や伊豆石や樹木の質感を工夫した作品。また、質感のある蔵を中心に周りの風景が同化する色で画面構成した作品は、さすが中学生です。そして一般成人2名も描きました。成人の目を通して、津倉邸の一角や茶室の縁に腰掛ける人物を童画の物語風に表現した作品になりました。貴重な夏休みの半日でした。
（私たちの住む町を絵で表現する。その絵を見てこの町の良さを再発見する。）
写生会の絵は、十月十八日〜十九日の掛塚祭り・津倉邸公開日に作品展で展示します。多くの人に鑑賞をしていただきたいと思います。

竜洋西小学校様には、夏休み前に学校で子供たちに写生会の案内などで協力いただき感謝申し上げます。
今回は参加者の枠が広がり、一歩前進の写生会でした。作品展が待ち望まれます。この試みが、次の写生会開催、そして文化財が多くある掛塚の町を描く写生会にさらに発展して行ければと思います。掛塚の皆様のご協力をお願い致します。
記事 福長昇

会員・賛助会員・ボランティア会員募集!

「みんなと倶楽部・掛塚」は、湊町掛塚の歴史を刻んだ貴重な文化財を守り、郷土の文化遺産として後生に引き継いでいくことができるよう、旧津倉邸の維持管理に協力しながら、掛塚地区が活気のあるまちになるための活動を展開していこうと考えています。私たちと一緒に活動していただける方を募集しています。是非、ご参加ください。

正会員

運営・企画に携わっていただけます。年会費 3,000円をお願いします。

賛助会員

会を側面から支えて頂きます。会への行事も自由にご参加ください。1口 1,000円の年会費となります。

ボランティア会員

会の事業・イベントに、いつでも気軽にご参加ください。会費はありません。小・中・高校生の方も気軽に参加してください。

振込先はこちら

静岡銀行 竜洋支店
普通預金 0439697
みんなと倶楽部地域づくり
会計 新村京子